

「ごきげんいかが79生」

編集部

新一年生が各人各様な大学のイメージを思い描いて入学して、はや2カ月（5月28日現在）が過ぎようとしている。一応大学生活にも慣れて落ち着いてくる頃と思い、「飛翔」編集委員が、できるだけの人に入学後の初めての意識調査としてインタビューを試みた。

<質問1> どうして総科を選んだか

- 「珍奇さに誘われて」
- 「漠然と」
- 「小論文があったから」
- 「偏差値」
- 「自分のやりたいことがはっきりしていなかったから」
- 「自分の適性にあってる」
- 「たまたま地元国立で国際関係ができるから」
- 「理系で受けて文系にすすめるから」
- 「社会文化コースに行きたかったから」
- 「情報行動にひかれた」
- 「文系でも、理系でも明確な区分がない」
- 「広く学問ができると思ったから」
- 「成り行きから」
- 「東京外大の足切りが恐かったから」
- 「中学校の時より、先生の話聞いて」
- 「先生からの強制（本当は教育へ行きたかった）」
- 「何でもできそうな気がしたから」
- 「総科という名につられた」
- 「内容が面白い」
- 「そこに総科があったから」
- 「専門バカになりたくなかった」
- 「二次の科目」
- 「他の理工学部に入りたくなかった。さりとて医学部は無理だから」
- 「幅広い教養を身につけるため」
- 「他に入る所がなかった」
- 「将来性がありそうに思えた」

<質問2> 大学生というものをどのように思っていたか（入学前と入学後）

- 「暇だと思っていたが、今は思っていた以上に暇である」
- 「勉強していると思っていたが、暇人」
- 「本を片手にアカデミックな雰囲気があると思っていたが、皆が遊ぶのに驚いた」
- 「まじめだと思っていたが案外アホ」
- 「暇そうできて忙しそうなのわけのわからない人種」
- 「麻雀狂が多いのではないかと思っていたが案外少ない」
- 「暇人の集まりと思っていたが、バカに見えても何かをやらおうとしている」
- 「自主的集団と思っていたが、遊んでばかり」
- 「夢があり解放的と思っていたがそんなによくない」
- 「遊ぶだけ遊びながら、将来の一応の安定を求めているようだ」
- 「遊べるだけ遊べる境遇にある人」
- 「個性を思いきり生かせる境遇にある人」
- 「立てばパチンコ、座ればマージャン、歩く姿はアルバイト」実感している」
- 「おっさんとおばはんと思った。今は実感」
- 「遊んで暮らしていると思ったが、案外気分的余裕がない」

<質問3> 総科の雰囲気はどうか

- 「まとまりが感じられる」
- 「アホが多い」
- 「130人という大集団で、いろんな人がいるので楽しい」
- 「つき合いの面でいい」
- 「一見アホの集まりのように見えるが、みんな何かを考えている深い面を持っている」
- 「楽しくうちとけやすいが、ともすれば自分を見失いやすい」
- 「一線を越えていて楽しい」
- 「みんなまとまっているようでバラバラであ

る。表面的なつき合いで、それ以上のものがない」

「個性はあるが凄味がない。人間と人間とのぶつかり合いが欲しい」

「広大の中ではいい意味でも悪い意味でも浮き上がっている」

「よくもこれだけ奇人変人が集まったものだ」

「いい加減いやになってきた」

「これからの時代の Pioneerの集まりのようだ」

「おもしろい」

「タテのつながりが強いのがいい」

「まじめとふまじめの間に差がありすぎる」

「研究室に来る人と来ない人とで隔たりがあるような気がする」

「他学部より気取りがなくてよいと思う」

「情報の問題についても、他コースの関係ない人達が一生懸命にやっているところに、人間関係の温かさを感じる」

<質問4>総科というものをどうとらえているか

「つかみどころがない。いろんな事ができそうだし定まらない」

「学際的学問をするところ」

「浅く広く学問をする場」

「はっきりした目標が定まっていなくて、結局4年間何も得ずに終わる恐れがあるような気がする。しかしその反面、自分の持つ無限の可能性にかけた人生を歩むための一つの大きな布石となり得る学部だと思う」

「遊ぼうと思えば遊べるところだし、勉強しようと思えば勉強できる場所である」

「世界一」

「ジャガイモ畑（わけのわからないものがごろがっているようだ）」

「専門バカにならないところ」

「もう一歩足りない学部。総合性が十分生かされていない」

「もっと総科を具体化して欲しい。そうでないと何をしているのかわからない」

「今から実績を積んでいかなければならない」

「大学から与えられた科目から自分で選べる学部」

「総科が社会においてどんな役割をするのか具体的に示してほしい」

「他に比べる対象がないのでいい」

「理想と現実面との食い違い」

「クイズ番組に強くなれる学部」

「陣痛に苦しんでいる妊婦のようである」

「大義名分が幅をきかせていて、結局やることは文系か理系かに限定されてきて、総合的にやれるとは思えない」

<質問5>下宿生は、暮らし向きはどうか

「最高」

「貧しく清く美しく暮らしている」

「想像していたよりはよい。安定生活」

「精神的にも経済的にも異常をきたしている」

「苦しい（8万円で）」

「めちゃくちゃ」

「ブルジョア的生活」

「いつのまにか金欠になる」

「夜はさみしくなります」

「環境が悪い」

「抜群」

<質問6>研究室の存在をどう思うか

「なかなかいい。人間同志のつながりができる」

「常連ばかりなので問題がある」

「ないよりはあった方がいい」

「無いと困る」

「閉鎖性がある」

「大切な場である」

「集まる所があることはいい」

「使用の方法を工夫してほしい」

「ごたごたしすぎだがいい」

「まあ気楽でいい」

「痛くもかゆくもない」

「空気のような存在（絶対必要）」

<質問7>総科の女性をどう思うか

「質より量」

「おもしろい人が多い」

「ユニークで人間が変わっている」

「普通」

「つっぱった人が少ない」

「他学部では美人多しと言う」

「わりととけこんでいい」

「男に同調するのではなく、もっと女性独特の考えとか感じてせまってほしい」

「かわゆい」

「好みの人が全くいない」

「特定の女性に集中するきらいがある」

「ドキッとするような女性が少ない」

「改良の余地がある」

「きれいな人が多い」

<質問8> 総科の男性をどう思うか

「勉強になる」

「夢があるような気がする」

「個性的でバイタリティーがある」

「燃える人が多い」

「もっと女子に話しかけてほしい」

「変わった人が多い」

「話しやすくてよい」

「みんな仮面をかぶっているようで判らない」

「とらえようがない」

「知れば知るほど複雑怪奇な人が多い」

「黒くて背が低い。ガキっぽい」

<質問9> 『飛翔』の存在をどう思うか

「飛翔が何を求めているのかわからない」

「あれ、あったん」

「存在感が薄い」

「コミュニケーションの場としていい」

「あった方がいいと思う」

「好きなこと書いていい」

「もっと読者をひきつけるようにしてほしい」

「学校が運営しているというイメージが強い」

「学生が起こした機関誌にしてほしい」

「本音をもっと入れてほしい」

「白いきれいな紙に活字というイメージ」

「連帯のため、自分達の進む道を話し合う場としていい」

「学生だから書けるものがなく、訴えるものがない」

「内容と名前が一致していない」

「タテのつながりができていいんじゃないか」

「おもしろい出来事をとり上げるとか、ユニークな先輩の紹介とかを載せてほしい」

「総科の浅い伝統のことも考え、総科の記録としての役割もあると思う」

「総科全体で作っているという感じが無い」

「限界内でやればよい」

「考えを発表する場があった方がいい」

「まじめで好感が持てるし、読みごたえもあるが、御用雑誌の感を免れ得ない」

「とても飛翔しているとは思えない」

「あまり関心がない」

<質問10> 将来の職業

「プログラマー」「研究者、学者」

「情報方面の仕事」「大学教授」

「公務員」「技術的な面での国際的な仕事」

「外交官又は外国と接触できるような職場」

「田舎のような、自然に恵まれた所での職」

「国際的な仕事」「地方自治体で公害研究」

「高校か中学の先生」「アナウンサー」

「マスコミ・ジャーナリズム系統」

「都市工学方面」「トルコ、パチンコ経営」

「幸せなお嫁さん」「放送関係」「自由業」

<ふり返ってみて>

1でまず気づいたことは、総合科学部をその名に感じられる視野の広さ、何でもできそうな学問追求の場、幅広い教養を得る場、何となく新鮮でナウな感じといったようなイメージでとらえてこの学部を選んだ人が多いということである。

第二には、情報行動科学コースとか環境科学コースとか、社会文化コースとかいった新設の学問領域に魅力を感じて選んだ人もかなりいることである。

また総科独特の現象として、文系で受験できて自分の進みたい理系に進めるからとか、自分の志望コースを決定するのに一年間の猶予があるからという意見も出た。なかには偏差値とか、二次の科目、足切りといったシビアな面ものぞかれる。

3で気づいたことは、総科全体にまとまりが感じられるという意見が多いということである。しかし一部には、そのまとまりは表面的なもので、必ずしも全体ではないという見逃せない意見もある。それにこのインタビューが研究室に来る人にある程度偏っている面もあるので、本当の意味での総科生全体のまとまり、つながりに関しては、各々がもっと真剣に考えなければならないであろう。

4の質問をしてみて改めて考えさせられたことがあった。それは、総科というものが実際何をする場なのか、具体的にどんな学問をするのかといった根本的な問題である。

総科自体が、できてまだ6年目で暗中模索の段階なので、新入生の多くの人が総科のぼんやりとしたイメージに戸惑いを感じていることは確かである。この問題は総科の宿命であり、また、総科の前途にかかわる重要なことなので、総科生一人々々が総科とはいったい何なのか、総科で自分は何をしたいのかを主体的に考え、議論し、総科生全体、そして総科の教官へと話し合いの輪を広げるしかないと思う。その意味で「飛翔」は9で掲げられた問題を克服して全面的に協力したいと思う。